

皆さんは、現代社会で生きにくいと感じたことはありますか。日本でいえば、少子化や高齢化問題。世界だと、地球温暖化や国同士の争いごと。また、今も流行り続けている新型コロナウイルスや個人個人の問題がそれに当てはまります。私は、先が全く見えないことで恐怖を感じたり、将来が不安になります。普通に学校へ通う事が出来、生活に必要な物は揃っているのにも関わらず何故そのように感じてしまうのか。今回は生きにくいと感じてしまう原因について考えたいと思います。

私が考える原因の一つは、他人からの評価が大切になった。言い換えると、他人への評価が厳しくなったと考えます。身の回りの物が便利になり過ぎたあまり、物欲よりも他人からの見た目や位置付けについて自然と意識するようになりました。人と違うことをすると注意を受け、目立つことをすると嫌われる。そのわかりやすい例が、いじめの多さです。昨年、文部科学省が発表した二〇一八年度小中高のいじめ件数は五十四万三千九百三十三件。年々増え続けていて、二〇一七年よりも約十三万件も増えた恐ろしい数値となっています。昔は素手でする喧嘩からいじめに繋がることが多かったのに比べ、今では裏で陰口を言ったり自分に被害が少ない形で他人に散々な目を合わせる事が出来てしまう。それがいじめが増えている原因だと思います。中学に入学してからの私は、自分の弱い所を見せたくないあまり常に自分を守る意見を発したり、謝ることよりも先に言い訳を考えてしまいます。親しい友人には本音で話せても、中々自分のことを話すのは小学生の頃より抵抗があると感じます。何事も完璧な人はいないということ、自分は他の人にはかえられない唯一の存在であるということ意識したいと考えました。

二つ目は、たくさんの情報が飛び交っていることが原因だと考えます。特に考えさせられるが、SNSによる誹謗中傷です。もちろん、SNSのおかげで知ることが出来た部分も多くありました。例えば、原爆が広島に投下された八月六日。恥ずかしながら、SNSで流れてきた動画を見るまで完璧に忘れてしまっていました。その時は、忘れてはいけない過去の出来事を忘れていた情けなさ、情報が手元に来た有難みを感じました。また、コロナの感染者数を一早く知ることが出来たり、戦争を経験した人のインタビューなどSNSを通じて新たに知ることや得れるものもありました。しかし、それを上回るほどの誹謗中傷があり、見たくなくても目に入ってしまう程汚い言葉が溢れています。誹謗中傷を身をもって感じたのが、芸能人の二方の自殺でした。どちらも若いのに一つしかない大切な命を絶ちました。警察庁の「令和元年中における自殺の状況」の調査によると、年間の自殺者数は減ってはいるものの現に年間約三万人の方々が自らの命を絶っていることが分かりました。また、同じ都道府県内に五十人前後の方々が一ヶ月間に自殺をしていて、他人事ではない問題であると言えます。今年は、耳にたこが出来るほど「誹謗中傷」という言葉を聞きました。たとえ、自殺理由がSNSではないとしても、少なからず関係している数字になっています。では何故、誹謗中傷で苦しむ人が多いのにコメント欄を封じたり、SNSを辞めたりしないのでしょうか。

やはりこの答えは、先程述べた他人からの評価に繋がってくるのではないのでしょうか。もちろん、SNSが便利であるという点ではありますが、誰かに見てもらいたい、認められたいという気持ちがどこかしらにあるのだと思います。でも、現実には甘くなく人気のある人が評価され、他と違う才能があると注目を受けます。しかし、少しでもズレたことをすればあっという間に叩かれてしまいます。つまり、普通でないといけなく、自分の個性を表しにくくなっているのです。そんな中でもSNSを続けるということは、例外を除き自分の心を満たしたい、認められる存在になりたいという思いがあるのでしょうか。SNSは周り自分とを比べる人一つの手段であり、心を満たせる時もあれば、比べたことで自分の自信を失ってしまうこともあるのです。

現在社会が生きにくいと感じてしまうのは、気持ち的な面を満たす「位置づけ」というものが世の中に多く存在するようになったからだということが、この二つの原因からわかりました。これから先、生きていく中でたくさんの悩みや大きな問題に直面するでしょう。その時に、他人からの評価ばかりを気にするのではなく自分という価値観を大切にしていきたいと思います。